

から離れると、ガスと磁場は分離している。取扱いは等温で静力学的である。磁場にねじりを入れた場合、ループをつくる不安定性など考慮するとどうなるか、今後の発展が望まれる。著者は Field 門下の若い人と思われるが、わが国の若い研究者のチャレンジ、特に関連分野で活発な名大グループの研究の発展を期待したい。

(海野和三郎)

### 雪の球散る星間空間

星の光が星間空間を通して太陽（観測者）の所に届くまでに、星間物質によって吸収される。その吸収量が光学波長域で波長に逆比例する事から、0.3 ミクロンより小さい星間粒子によって、この吸収がひきおこされている事が判る。

一方、銀河系内の各元素の存在比は、太陽や散光星雲や隕石等の存在比の考察から求められている。

Greenberg (Ap. J. 189, L81, 1974) は星間粒子の考えられる組成として、氷、シリケート、グラファイト、鉄を考慮して、星間空間中に1 ミクロンより小さい星間粒子に含まれる（水素を除く）各元素の  $1 \text{ cm}^3$  当りの個数（密度）を求めた。又、原子や分子による星間吸収線の観測から、ガス状態にある（水素を除く）各元素の密度を求め、その和が星間水素の密度から計算される各元素の密度より小さい事を示した。

もし、これが事実であれば、現在観測されている波長域の星間吸収線の観測にはかからないような多原子分子になっているか、星間吸収量が波長に依存しない程度に大きな星間粒子（氷が主成分なら雪の球）でなければならない。(磯部秀三)

### 1973年6月～1974年6月に発見された新星と超新星

1974年6月末までに、東京天文台に連絡のあった新星・超新星は次の通りである。(1973年5月末までについては天文月報1973年7月号雑報参照)

N.G.C.	$\alpha$ (1950.0) $\delta$	U.T.	光度	発見者
7495	23 <sup>h</sup> 06 <sup>m</sup> 4 <sup>s</sup> +11°47'	1973 IX 2.964	15.5 (pg)	P. Wild
7337	22 35, 2+33 11	IX 4.36111 19.0 (pv)		J. Kormendy
3627	11 17. 6+13 17	XII 19.05	14.5 (pg)	Rosino
IC 43	0 39. 7+29 22	XII 24	16.5 (pv)	C.T. Kowal
	11 09. 4+54 18	XII 24	17.0 (pv)	C.T. Kowal
4156	12 08. 4+40 45	1974 I 28.5	20.0	H.C. Arp
3310	10 35. 7+53 46	II 25.4	16.5 (pg)	Kruit, Arp
5161	13 26. 3-32 54	I 28	14.5 (pv)	C.T. Kowal
3916	11 48. 2+25 25	III 20	15.5 (pg)	M. Lovas
4038-39	11 59. 2-18 35	III 21	14.0 (pg)	M. Lovas
4414	12 24. 0+31 30	IV 21	13.0 (pg)	Burgat

なお上記のうち N.G.C. 3627 (=M66) に出現した超新星については、愛知県東海市のアマチュア古田俊正氏が写した1973年Ⅻ31日のフィルム上で独立に発見しています。(香西洋樹)

## 学会だより

### 春季年会講演申込みについて

今春の年会は例年通り5月に東大理学部2号館講堂で開催の予定です。講演申込みをされる方は『〒181 三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台内 中桐正夫』宛に**3月10日必着**で規定の用紙を用いてお申込み下さい。申込用紙は下記支部理事に返送料20円同封の上、御請求下さい。

#### 記

北海道：坂下志郎 〒060 札幌市北八条西5丁目  
北海道大学理学部物理学教室

水沢：岡本功 〒023 水沢市星が丘町 2-12  
緯度観測所

仙台：須田和男 〒980 仙台市片平 2-1-1  
東北大学理学部天文学教室

東京：中桐正夫 〒181 三鷹市大沢 2-21-1  
東京天文台

名古屋：祖父江義明 〒464 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学理学部物理学教室

京都：上杉明 〒606 京都府左京区北白川追分町  
京都大学理学部宇宙物理学教室

中国・四国：三沢邦彦 〒766 高松市幸町 1-1  
香川大学教育学部天文学教室

◇講演申込者で財政的理由により旅費の補助を希望される方は、支部理事に御相談の上、3月10日までに「東京天文台内日本天文学会庶務理事」あてに申込んで下さい。なお申込みの出来る人は、49年度会費まで納入済みの人で、原則として連名の場合でもスピーカーであること、所属機関などから正式の旅費給与を受けていない人（たとえば大学院生などで）に限ります。

◇今年講演申込締切日と月報3月号発行日が非常に接近している為、申込期日を年会日取り決定の前に2月号でお知らせ致しました。年会の日取りは3月号でお知らせする予定です。

### 天文月報編集部よりお願い

春・秋季年会の講演プログラムは、以前は天文月報折り込み付録としてお届けして居りましたが、第三種郵便物の規定にふれる為、1971年以後本文中に印刷する形になり、その印刷完成は通常のルーチンでそれまでよりかなり時間がかかるようになりました。一方、講演申込み締切期日は変更せずにやってまいりましたので、プログラムを年会の前月発行の月報に掲載する為には、月報編集部にかなりの負担が集中し、又印刷所にもかなりの無理をお願いしているのが実情です。講演申込みの締切

は遅い程良いというのは講演申込者（編集部員も申込者でもあります！）の大方の感じではある事は否めませんが、最近の印刷事情等を考えますと、編集部としては年会の講演申込み締切り期日を従来より約一ヶ月早くして頂く事を希望し、すでに理事会の席でも申出てあり、一応の御了解を得ております。その結果

(i) 今春の年会に関しては従来の締切を多少早める程度に止める。

(ii) 秋季年会以後に関しては、講演申込み締切を従来よりほぼ一ヶ月早く（春2月20日頃、秋7月20日頃）するという線で、講演申込者の皆様の御意見をお聞きする。

というステップをとる事になりました。5月の理事会で結論を出して頂く為、御意見を3月中に最寄の支部理事の方、又は直接天文月報編集部の方にお寄せ下さるようお願いいたします。  
(文責 天文月報編集部)

### 賛助会員名簿

(1975年1月5日現在の国会賛助会員は下記のとおりであります。ここに社名、代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。(五十音順))

旭光学工業株式会社	鈴木幸三郎	ソニー株式会社	井深大
朝日新聞社科学部	梅田敏郎	谷村株式会社新興製作所	谷村昌子
アジア航測株式会社	駒村雄三郎	地人書館	上条勇
アストロ光学工業株式会社	滝沢磐	天文博物館	
岩波書店	岩波雄二郎	五島プラネタリウム	五島昇
宇宙開発事業団	島秀雄	東京精密測器株式会社	池辺常刀
沖電気工業株式会社	佐藤敦之	東京電力株式会社	木川田一隆
カールツァイス株式会社	波木泰雄	東北電力株式会社	若林彊
関西電力株式会社	芦原義重	ナルミ商会	村上俊男
関東電気工業株式会社	関井忠夫	日本光学工業株式会社	彌永恭二郎
九州電力株式会社	瓦林潔 <small>カツラ</small>	法月鉄工所	法月惣次郎
啓文堂松本印刷	松本喬	丸善株式会社	司忠
恒星社厚生閣	志賀正路	三鷹光器株式会社	中村義一
甲南カメラ研究所	西村中子	三菱電機株式会社	
五藤光学研究所	五藤齊三	電子営業第二部	伊東祐義
金光教本部教庁	金光鑑太郎	ミノルタカメラ株式会社	田嶋一雄
島田理化学工業株式会社	前田幸夫	八洲測量株式会社	西村正紀
新電子工業株式会社	山本和一	フジ見商会	坂本多賀志
誠文堂新光社	小川茂男		

1974年11月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	4,	9	6	3,	16	11	2,	6	16	4,	18	21	3,	17	26	2,	5
2	3,	6	7	2,	11	12	2,	13	17	—,	—	22	2,	25	27	2,	12
3	—,	—	8	3,	8	13	1,	7	18	1,	10	23	2,	21	28	1,	15
4	3,	24	9	0,	0	14	1,	4	19	2,	16	24	4,	29	29	1,	15
5	—,	—	10	4,	11	15	2,	4	20	3,	23	25	4,	30	30	1,	1

(相対数月平均値: 26.0)

昭和49年1月20日	編集兼発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	森本雅樹
印刷発行	印刷所	〒112 東京都文京区水道2-7-5	啓文堂松本印刷
定価 300円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話武蔵野 31局 (0422-31) 1359	振替口座東京 13595